多趣多様

ハープ

癒やしの音色で魅了

旧約聖書やギリシャ神話に登場するハープは、世界で最も古い楽器の一つ。スタジオジブリのアニメ映画「借りぐらしのアリエッティ」のテーマ曲にも使われ、最近、女性を中心に挑戦する人が増えている。

仙台市青葉区のハープ専門店「グレースハープ仙台」の教室の生徒たちも、9割が初心者。その半数は楽器の演奏自体、初めてという。

「ハープは音階順に弦が並んでいて、ドは赤い弦、ファは青と、色が着いています。難しそうに思われがちですが、意外と簡単に演奏できる楽器なんです」と、社長の二瓶佳子さんが説明する。

夏休みにレッスンを始めた小学6年の菊池有紗さん(12)は、初回30分で、人さし指だけで「きらきら星」を弾くことができた。「音がとてもきれい。弾いてて気持ちがいい」と、クラシック曲のマスターを目指す。

ハープは小指以外の4本の指を使い、右手でメロディー、左手で伴奏を弾く。楽譜にはどの指で弾くか、指番号が振ってある。二瓶さんは「ピアノを弾く人なら、2、3カ月で指遣いを覚えられます」と太鼓判を押す。

二瓶さん(右)の指導で、指遣いを練習する菊池さん

会社員の伊藤亜由美さん(31)は偶然、路上で聞いたハープの音色に魅せられ、7月から練習を始めた。仕事帰りのレッスンは、癒やしのひととき。聴覚に訴えるハープのセラピー効果を実感し「いずれは誰かのために演奏したい」と励む。

米国ではハープを使った音楽療法が定着している。二瓶さんは「ハープは癒やしの楽器です。日本でもハープが身近な存在になるよう、高齢者施設や幼稚園などで演奏できる仕掛けをつくっていきたい」と話している。

ここが肝心

指遣い 表現力も必要

ハープには、ペダルで半音上げ下げするオーケストラハープと、アイリッシュハープのようにレバーで切り替えるタイプがある。

弦の数は、大きさによって異なる。小型のものは持ち運びでき、屋外演奏が可能だ。ただし、「さまざまな曲を演奏したいなら、最低でも4オクターブ、29弦はあった方がいい」と二瓶さん。

音を連続して滑るように演奏する「グリッサンド」、親指で弦をはじいて倍音を響かせる「フラジオレット」など、奏法も多彩だ。神秘的な音色が特徴なだけに、姿勢を正し、常に親指を立て、指遣いを優雅に見せる表現力も求められる。

クラシック向きの印象が強いが、もともとは羊飼いが使った庶民の楽器。ボサノバ、ジャズなど多様なジャンルで楽しめるのも魅力だ。

ハープの音色は、使われる木の種類、大きさ、弦の間隔によって1台ずつ異なる